



序 文

阿波学会会長 湯 浅 良 幸

神山町での総合学術調査の実施は46回目に当たる。阿波学会は昭和29年（1954）県下の18学会によって結成され、主なる事業として毎年県下各地域で総合学術調査を実施、その成果として報告書『阿波学会紀要』を発行してきた。以来、加盟学会も増え、紀要の質も徐々に向上し、ページ数も第45号ではB5版・367ページになっている。

調査対象地域は、各市町村を一巡するのを原則としてきた。が、「祖谷川流域」「磯漁業地帯阿部・伊島」「麻植パイロット開拓地帯」「祖谷・松尾川流域」のように広域にわたって、あるいは緊急に調査を行う必要の生じたときには地方自治体の枠を超えて実施してきた。しかし、昭和51年からは各町村ごとに行っていて、広域での調査はなされていない。これは主として受け入れ町村側の事情によるものである。本会としては、ときには各加盟学会が同一テーマで、しかも相当広域においての調査を望むものであるが、そのところは今後柔軟に対応していきたい。

が、全市町村を一巡するとすれば50年かかることになる。たとえば、神山町のように昭和50年に調査を行った地域でも、過疎化が進み町内の生産構造・人口動態等に著しい変化の生じているような場合、再調査を行い4半世紀の間にどのような変化があったか、前回の時点での調査と今回の調査とを比較することによって各方面からの問題点を提議することが出来る。このような調査は、今後とも必要であり、事情が許せば数年に1回くらいは既調査地であっても再調査をやりたいものである。

神山町については私が今ここで書く事は何もない。神山町といえばまず頭に浮かぶのはスダチ・ウメの大産地のイメージである。さらに歴史の古さと豊かな文化が息づいている町である。指定文化財だけでも国指定2件、県指定14件、町指定36件もある。森林公園・焼山寺もこの町に所在する。阿波学会としては願ってもない調査地である。

本会は平成11年7月27日から10日間22班、174名が参加して学術調査を行い、多くの成果を挙げる事が出来た。

学術調査に際し、高橋町長さんをはじめ町関係機関並びに町民の皆様からご支援・ご協力をいただきましたことを御礼申し上げます。また、猛暑の中、天候不順にも関わらず、熱心に調査くださった団員の皆様、運営に当たられた県立図書館の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。